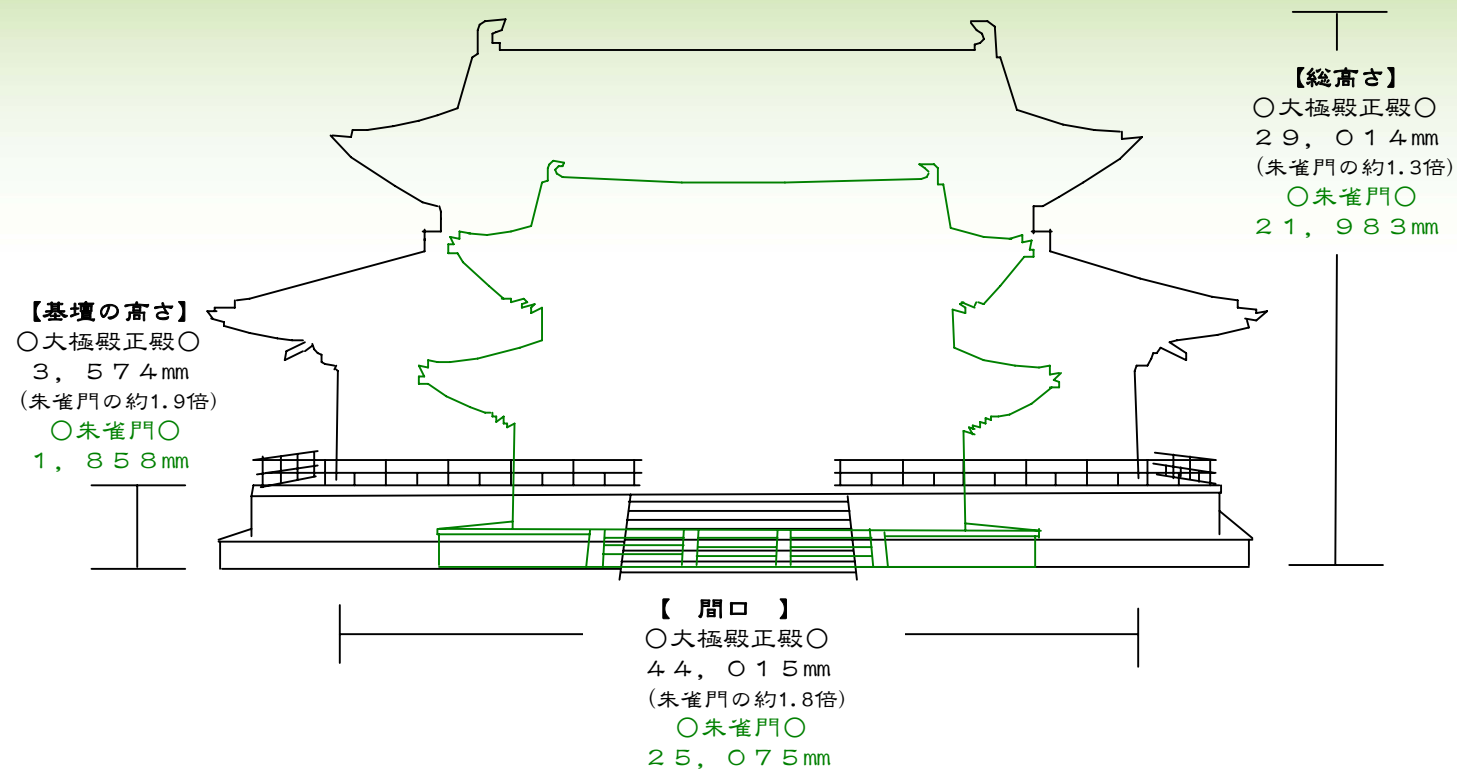
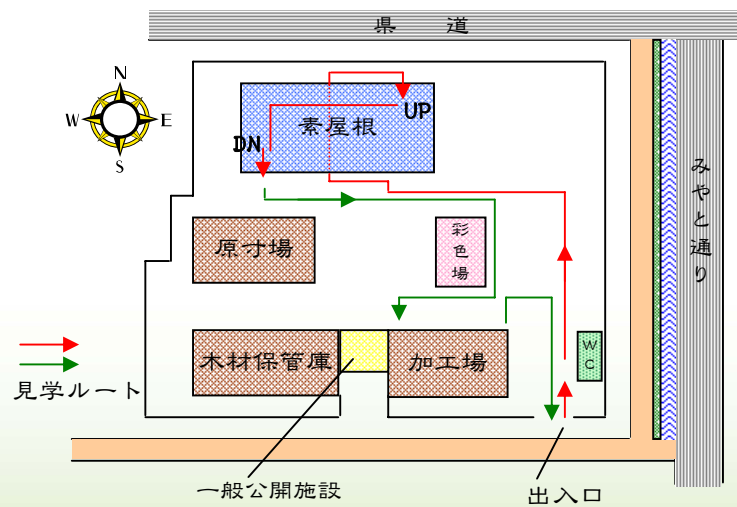


第一次大極殿正殿と朱雀門の比較



現場内 見学ルート



特別史跡 平城宮跡
 第一次大極殿正殿復原整備
 特別公開 (第2回)



平成17年 4月29日 (金) ~ 5月1日 (日)

- 主催■ 文化庁 奈良県 奈良市
- 協力■ 文部科学省
 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会
 (財)文化財建造物保存技術協会
 特定非営利活動法人 平城宮跡サポートネットワーク
 平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事
 竹中・淺沼・森本特定建設工事共同企業体
 平城遷都1300年記念事業協会準備事務局
- 協賛■ (財)竹中大工道具館

平城宮跡第一次大極殿正殿復原 設計概要

平城宮跡第一次大極殿正殿復原は、当時の奈良国立文化財研究所（現独立行政法人 文化財研究所奈良文化財研究所）において、平城宮跡におけるそれまでの研究成果を基に、平成10年度から平成12年度までの3年間で実施設計を行いました。

第一次大極殿正殿復原整備事業は、調査研究の成果を基に奈良時代様式（意匠・構造・材料・工法等）の史実に基づく厳正な復原を目指しています。

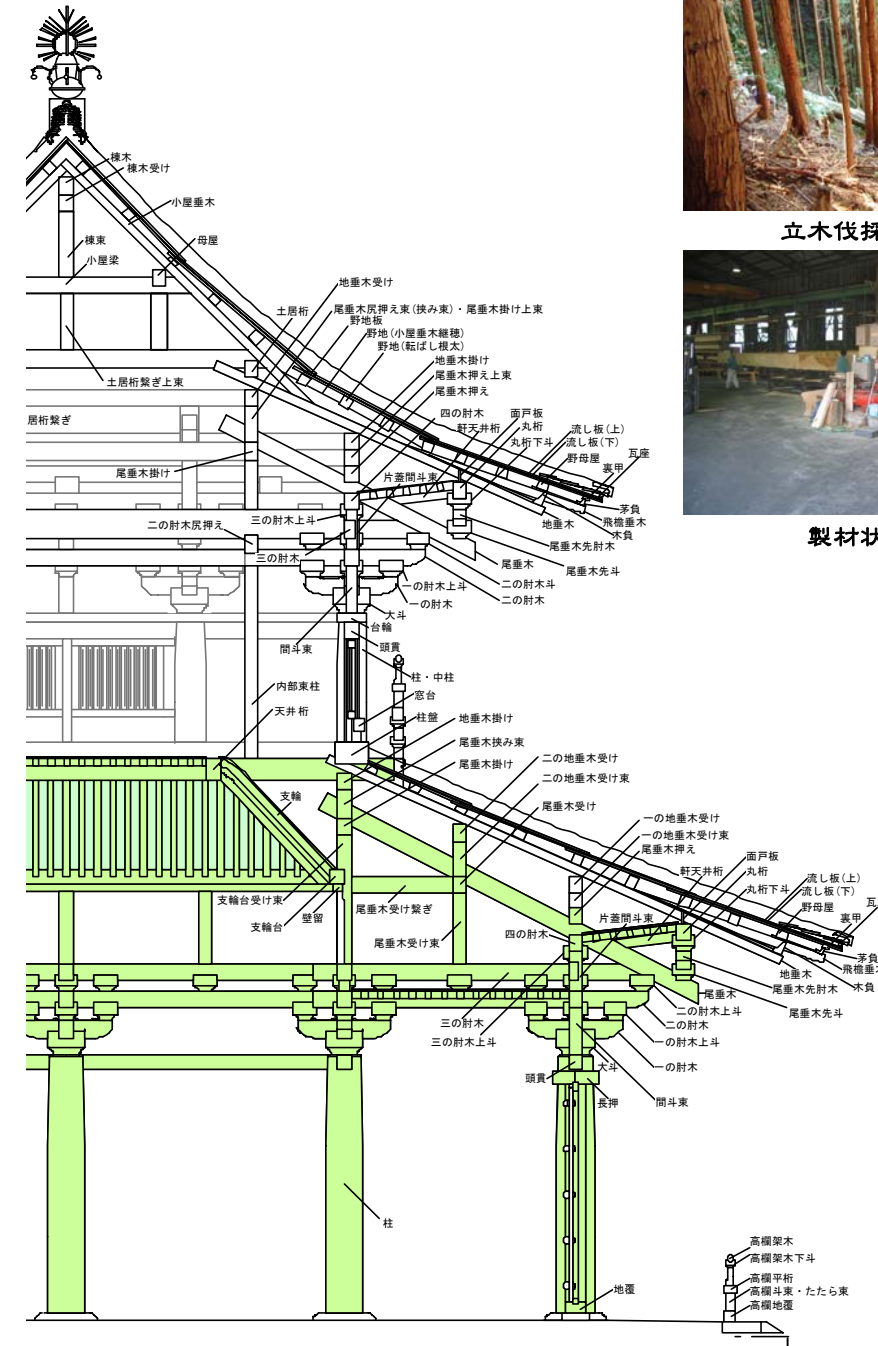
『奈良時代様式』での厳正な復原の実施のためには、建築基準法・消防法等の現行の建設関係法令等に適合させるとともに、特別史跡平城宮跡の埋蔵文化財の保護・保存のための処置を実施しています。

埋蔵文化財に対する保護：遺構面上部への盛土（約80cm）

現行法規に対応する設備：
 免震装置の設置（基壇内部）
 ：自動火災報知設備の設置
 ：屋外消火栓の設置
 ：避雷設備の設置



正殿完成予想CG



主要部材の名称

※現在 緑色 で着色された部分まで組立が進んでいます。

◆ 木材の調達 ◆

復原工事で使用する木材は、国内産のヒノキ及びケヤキで、主に紀伊半島周辺産のものが搬入されています。



立木伐採状況



製材状況

◆ 木材の加工 ◆

木材は、粗加工された状態で搬入され、木材保管庫で検収・保管・乾燥させた後、奈良時代当時の伝統工法により仕上げが施されます。



二の肘木



支輪板

◆ 塗装 ◆

大極殿の建物木部には丹土塗装、軒や天井などの建物内部には古代技法に倣って文様彩色が施されます。



二の肘木丹土塗装



文様彩色（天井板）

◆ 基礎・基壇工事 ◆

鉄筋コンクリート造の基壇の表面には凝灰岩による石張りを施し、奈良時代当時の姿を復原しています。



基壇石張り



基壇全景

◆ 素屋根工事 ◆

正殿をすっぽり覆う大きさの素屋根は、ビル等一般の建物の8階相当の規模で長期間の工事の間、正殿を天候等の影響から守ると同時に、足場等の役割も果たします。



素屋根建設状況



素屋根内部

◆ 免震機構 ◆

基壇内部には、それぞれ異なる役割を果たす3種類の免震装置が合計54基設置されており、地震力による振動が直接建物に伝わらないようにしています。



免震機構据付状況



免震機構据付完了

◆ 木材の組立工程 ◆



平成16年 2月

5月

7月

9月

10月

12月

平成17年 2月

3月